藤河内渓谷周辺地域の自然を考える

藤河内渓谷周辺地域は，昭和40年（1965年）に指定された祖母傾国定公園地域内にあり，山岳地帯と渓谷で代表される深山幽谷の景勝地です。しかし，最近では道路の舗装整備がすすむなど，生活が便利になっていく反面，自然環境の変化も大きくなっているようです。

そこで，藤河内渓谷周辺地域の自然について，自然林を通してみんなで考えてみましょう。

夏木山のツガ林

藤河内渓谷周辺地域には，年間3,000ミリを超える雨が降ります。そして，この雨は森林を育て，深い谷と渓流を生みだしています。

藤河内渓谷周辺地域の谷や尾根には，まだ自然林が比較的広く残されています。しかし，この地域の森林は，ほとんどが国有林ですが，森林施業の歴史も古いために，自然林はかなり失われ，スギやヒノキなどの人工林がふえているのも事実です。

自然林と動物 —動物のすみかを守る自然林—

鳥　類

自然林には，多くの植物や昆虫が存在し，そこに鳥がすみつくことで食物連鎖が成り立っています。自然林がなくなると，そのぶん植物や昆虫もいなくなってしまいます。すると，鳥はえさを食べることができなくなり，そこに住めなくなります。

クマタカという野鳥は，山地の森林における生態系の頂点に位置する野鳥ですが，４～５年前まで藤河内渓谷周辺地域で何度か目撃されていました。

しかし，この鳥が，ここ２～３年は目撃された事例がありません。生息が心配されています。

哺乳類

藤河内渓谷周辺地域の森にすんでいるイノシシやニホンカモシカにとって，自然林は唯一の安住の場所です。自然林が少なくなると，えさ場を追われた動物が人工林を食べるという食害が心配されます。

自然林と清流

藤河内渓谷地域は，降水量が多い上に地形が険しく，硬い地質のために降った雨は地中にしみこみにくく，豪雨の時には洪水が発生しやすいといわれています。

大雨による洪水や地形の侵食などを防止するためにも，「緑のダム」といわれるように雨水を蓄える森林を保全することが大切です。

そして，藤河内渓谷地域の河川は，真水に近い水のため，汚染物質に対する抵抗力が小さいといわれています。つまり，少量の汚染物質が流れ込んでもその影響は大きくなります。キャンプ場などのレジャー施設や民家からの排水についても細心の注意が必要です。

藤河内渓谷の秋

まとめ

藤河内渓谷周辺地域のすぐれた景観保全のためにも，自然林の保護は大切です。自然林の伐採はもちろん，人工林の植林による林相の改変，道路の造成，観光開発等による動植物生息地への車の進入，渓谷探勝者や登山者の増加などによる環境悪化も極力避けなければいけません。